

事業所名

グループホーム青空

(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付

平成20年 1月22日

評価機関名

㈱東京リーガルマインド

(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員

A:現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

B:現職 簡易郵便局経営
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、要介護認定調査員

自主評価結果を見る

(事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る

(評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	○入居者一人ひとりの生活のリズムやペースを保ちながら、持ち味を損んでそれぞれの特性を受容し、ゆっくりとした対応を心がけて入る。 ○外部の研修に積極的に参加し、内部研修を充実させて介護知識を共有している。理念の具現化を目標に各種マニュアルを整備し、どんな状況にあっても全職員が統一性のある安定した対応が出来ることを目指している。 ○緑に囲まれた静かな環境の中で、その地域の生活者として戸外で過ごしやすくする工夫を凝らす等、家庭的で心豊かな暮らしを目指している。 ○理念でもある『個人の尊厳を大切に、明るく穏やかな暮らしが出来るように心温まるケアを提供する』ことを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	○入居者が落ち着いて過ごせる場所の提供を目指し、共用空間などフロア内の居場所を工夫し、廊下も有効に活用して入居者のストレスを解消するようにしている。 ○入居者・家族の「心の声」を聞き取り、職員との自由な信頼関係を構築し、共同で明るく穏やかな暮らしが出来るように取り組んでいる。 ○職員は、入居者に寄り添い触れ合うようにして入居者自身のことを知り、理解するようにしている。また、「私の気持ちシート」を設け、自由に語りあって気分を楽にする努力を続けている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

○ホームは、東北の中山間地、真庭市落合地区の緑の囲まれた山間の川のほとりにある。四季折々の景観が楽しめる静かな環境であり、また、近くには国道も通っており、交通のアクセスも良い環境である。

○母体法人は、地域の歴史ある総合病院であり、医療面では24時間対応できる体制が整っており、万全な医療のバックアップにより入居者・家族共に安心が得られる。

○『個人の尊厳を大切に、明るく穏やかな暮らしの実現』を目標とする理念の具現化に向け、職員は入居者に寄り添い笑顔で接している。入居者は自分らしく過ごし、それぞれの生活リズムを保ちながら、ゆったりのんびりしたホーム生活を送っている。

○看護師・保健師でもある管理者は、認知症介護の専門知識を生かし、地域への認知症の啓発のため、真庭市や老人クラブなどの要請に応じて講演に出かけている。常に、認知症について系統的に研究し、知り得た事はスタッフ全員で共有して介護資質のレベルアップに努めている。

○それぞれに特徴がある2ユニットのホームで、一体的に機能しており、多様性のある入居者に対し、具体的に対応できるシステムを採用している。

○職員全員が自主評価を行い、課題項目については相互に確認し合っている。また、外部研修で学んだことは内部研修で情報を共有し、ケアサービスの向上に生かしている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

改善点として特段に指摘すべき課題は見当たらない。
○家族会を結成するなど、家族同士の相互理解を進め、ピアカウンセラーとして家族間の悩み・希望を話し合う状況を作り出し、家族の意見も地域の声として推進会議に結び付けていけば、更に地域福祉の中核となり、過疎化が進む東北の高齢化福祉に大きく寄与することと期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	○職員は、入居者一人ひとりのできる事、できない事をはっきりと把握して記録し、生活面での役割作りに活かしている。 ○職員は、入居者一人ひとりの個性や立場を配慮し、礼儀をわきまえた対応を心掛けている。入室の際には許可を得、失禁時や食べこぼしの後始末はさりげなく行い、丁寧ではあるが普段家庭で使う言葉を使って語り掛ける等、入居者の尊厳を守る支援を行っている。 ○不要となった個人に関する記録やメモは、シュレッダーで破棄して個人情報に他に漏らさないように注意している。また、入居者に関する電話での問い合わせには、相手・内容を確認して不用意に応じないようにしている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	○職員は全員自主評価を行い、それぞれにチェックして問題点について共通認識を持ち、ケアサービスのレベルアップに向けて努力している。 ○室内の必要な場所には手すりを取り付け、玄関にもスロープを設けている。ホーム前の道路には、自費でカーブミラーを取り付け、入居者・職員・来訪者の事故防止に前もって万全に備えている。 ○ホームの行事を始め、日常生活のあらゆる事項を写真に写して記録文書と一緒に残している。また、資料には具体性を持たせ、問題解決の検討・研究に備えている。毎月の避難訓練、消防訓練等も細かく写真に残し、反省・対策材料として事故防止に努めている。		